

ゴリラから見た人間の家族と子育て

講師

・ 京都大学 人類進化論研究室 山極寿一教授

期日

・ 平成25年2月2日(土)

時間

・ 15:00～16:30(受付開始14:30)

会場

・ 長野県看護大学 大講義室 (教育研究棟 3階)



講演内容

家族は男女が協力して次の世代を育てるとともに、人間の社会性を根底から支える装置です。今までそれは文化の力によって作られ維持されてきたと考えられてきました。でも、実は人間の生物学的な特徴と密接な関係があります。つまり家族は人間の進化の原動力であり、結果であるということなのです。

例えば、人間に近縁なゴリラと比べてみると、ゴリラは2キログラム弱、人間は約3キログラムで生まれてきます。ゴリラの赤ちゃんはとてもおとなしいのに。人間の赤ちゃんはけたたましい声で泣きます。しかも、ゴリラの赤ちゃんは3年間もお乳を吸うのに、人間の赤ちゃんは1歳前後で離乳してしまいます。にもかかわらず、人間の子どもはとても成長が遅いのです。

なぜこんな変なことが起こるのでしょう。それは人類が進化のある時期に多産になり、脳を大きくするために子供の成長過程に変化が起きたことを示しています。それを可能にするために人間は家族をもち、独特なコミュニケーションを発達させて、共感力に富んだ社会を創り上げたのです。その家族と子育てが、今おかしなことになっている理由を過去にさかのぼって考えてみようと思います。

- 対象:一般の方々, 看護専門職の方々, 医療・福祉関係の方々
- 定員:200人 (参加費無料 どなたでもご参加いただけます)
- 申込方法:氏名・住所・電話番号を記入の上, はがき・電話・FAX・電子メールにて, 1/25(金)までに, 下記までお申込みください。
(定員に達していない場合, 当日でも参加可能です)

- 申込・問い合わせ先:〒399-4117 駒ヶ根市赤穂1694番地
長野県看護大学 事務局総務課 TEL/0265-81-5100 FAX0265-81-1256
E-Mail somuka@nagano-nurs.ac.jp

- 主催:長野県看護大学広報・交流委員会, 後援:長野県教育委員会